

はじめ私はエリスの母は豊太郎の金や地位を目的にしている、母親と同じようにエリスもそうなのだろうと思った。だが読んでいくうちに、そう思えなくなってきた。なので、これから本文の流れに沿って明らかに豊太郎の金や地位が目的な母親と、エリスを比べ、エリスは悪女ではなく、純粋に豊太郎を愛していただけで、豊太郎の金や地位が目当てだったのではなかったという結論にいたる根拠を、エリスの行動や言動からあげる。

まず、エリスの母は最初からエリスに金をなんとか稼がせようとしていた。エリスの母は、座長から弱みにつけこまれて、金稼ぎに関する、身勝手な要求をされていたエリスが言うとおりにしないという理由でぶった。それほど金に執着していたことがわかる。それに対しエリスは、男気ある父の庇護をうけ育ったため、当時の踊り子のほとんどがしていた身を売ったりするような仕事には身を落としていなかった。もし金だけが必要ならば、美しい容姿のエリスが金を稼ぐことは容易だったはずだ。このことより、エリスは金よりも自分の誠心が大事であったことがわかる。父が死に、身の回りにいるのは母と座長くらいで、父の教えを受け継いだエリスとは考えや価値観が違う人しかいなかった。そのため一緒に暮らしている母には歯向かうことが出来ず、母に、言うとおりにして金を稼げるような付き合いをしているように思わせ自分を守り、今まで自分を庇護し育ててくれた亡くなったばかりの父を年の離れた豊太郎の存在を重ねて安心感を感じ、そして純粋にひかれていった。

エリスは豊太郎の免官を聞いたとき、豊太郎を哀れみ、豊太郎との別れを悲しみ沈んではいたが、それでも一緒に居た。母親がそのことを知ったら、金の稼げる付き合いでないと判断し、別れさせられると思ったエリスは母親に言うなど言った。もしエリスと母親は同じ考えなら、豊太郎をエリスが連れて帰った日のように、二人で話しをし、事を決めるはずだ。このことから、エリスは母親をだましてまで豊太郎と一緒にいたかった。

相沢からの手紙が来たとき、新聞社の報酬に関するものか、とエリスが大げさに反応したのは、豊太郎は新聞社の報酬を当てにドイツに留まっていた、そのおかげで日本への帰国の危機が先延ばしにされていたので、もし、この報酬があてにならなくなれば、豊太郎が日本へ帰るのでは、という不安が大きかっただけで、エリスは報酬自体に執着していたのではなく、報酬や地位にこのときまだ執着していた豊太郎を愛するあまり、つなぎとめるためのものをなくさないように必死だったのだ。豊太郎が相沢に会いに行くとき仕事をもらえるのを期待していい格好をさせたのもそのせいだろう。それに対してエリスの母が豊太郎が相沢に会いに行くとき、いい馬車を呼んだりしたのは、娘の心の支えである豊太郎を引き止めるためではなく、豊太郎が出世をし、金が入るようにするためだった。このことから、母親はこのときもずっと豊太郎の金や地位を目的に一緒に居た。

エリスの手紙に、明日の暮らしに困り、食べるものがなかったときにも豊太郎がいないときほどの心細さはなかったとある。このときすでに、エリスにとって豊太郎は、十分な食べ物や十分なお金以上の安心を与えてくれる存在だったのだろう。

もしエリスが悪女で、豊太郎の金や地位が目的なら、協力して男の金や地位を手に入れるように仕向けてくれた母親を、ドイツに一人残してまで、日本に行きたがるだろうか。もしエリスは母親の言うとおりに生きてきて、母親のような悪女に育ったなら、きっとその母親は大きな存在であるだろう。そんな母親を置いていくとは言わないだろう。

本論より、エリスは豊太郎の金や地位が目当てではなく、豊太郎を純粋に愛してたのだ。金を必要としていたのではなく、自分とともに生きていける豊太郎という人間を必要としていたのだ。確かに、エリスの行動はたまに異常で、金が目的なのでは？と思うところもあった。

参考 \* ネットの訳